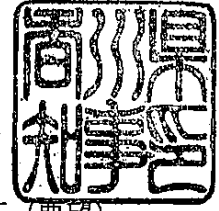


平成28年12月22日

国立大学法人香川大学長  
長尾省吾様



香川県知事 浜田 恵造

地域活性化に向けた機能強化を目指した大学改革構想の実現について（要望）

香川大学におかれましては、これまで、地域の知の拠点として、地域を支える優秀な人材を多数輩出するとともに、希少糖研究や防災、危機管理などをはじめ、様々な分野で地域の活性化に貢献しておられます。

一方で、本県の大学進学者の8割以上が県外大学に進学しており、若者の県外流出に歯止めをかけるため、県では、平成27年10月に策定した「かがわ創生総合戦略」において「魅力ある大学づくり」を位置づけ、県内大学等の充実強化、連携強化を一層図るとともに、特に香川大学に対しては、本県の地域資源を活かし、地域の活性化に資する建築デザイン、文化芸術、観光といった分野のほか、本県が四国の防災拠点機能を確保するため防災・危機管理といった分野での人材育成の推進を提案したところです。

また、国においては、国民の心の健康の保持増進に寄与することを目的とし、平成27年9月に公認心理師法が公布されるなど、心の問題は、私たちの生活に関わる重要な問題となっています。本県でも、心の健康づくり等を推進するため、地域や事業所、学校などの相談体制を充実するとともに、保健医療や福祉、教育等の幅広い分野で、心理の専門職として、心の問題に関する相談や助言を行うことができる人材の育成・確保が急務となっています。

そのような中、貴学においては地域活性化の中核的拠点としての機能強化を目指し、地域のニーズに沿った新たな人材育成に取り組む新学部・新学科の設置等を盛り込んだ「機能強化を目指した大学改革構想」を先般公表されましたが、その取組みは、地方創生の観点からも重要で誠に時宜を得たものであり、県としても香川大学と多様な連携・協力を図ってまいりたいと考えております。

貴学におかれては、県内唯一の国立大学として引き続き教育研究や地域貢献に御尽力いただくとともに、改革構想の大きな柱である下記の取組みを早期に実現されるとともに、今後の定員増にも取り組まれるよう強く要望いたします。

## 記

## 1) 創造工学部（仮称）の設置

地域からの要請の強い「造形デザイン」、「建築デザイン」、「防災・危機管理」、「情報セキュリティ」などの分野において新たな付加価値を生み出すことのできる創造力に富んだ人材を育成する新学部を設置する。

## 2) 医学部臨床心理学科（仮称）の設置

保健医療、福祉、教育等の分野で活躍する心理専門職である公認心理師（国家資格）の養成等を目的とした新学科を設置する。

## 3) 経済学部の改組

地域からの要請の強い「観光分野」で活躍できる人材など地方創生を担う経済・経営人材の育成を強化する。

平成 28 年 5 月 14 日

要 望 書

国立大学法人香川大学長

長 尾 省 吾 殿

香川県臨床心理士会

会長 黒河内 美鈴



謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より香川県臨床心理士会の活動にご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、この度、貴学教育学部人間発達環境課程が平成 29 年度を最後に閉じられることを伺いました。当会には、貴学の教育学部に学び、さらに、大学院教育学研究科学校臨床心理専攻で修士号を修得し、臨床心理士となり地域で活躍している者がたくさんおります。また、香川県で臨床心理学の専門的な講座を開設されている大学は、貴学しかございません。ですから、香川県の臨床心理学に関する学びの灯火が消えますことはとても残念でなりません。そこで、貴学におかれましては、医学部臨床心理学科及び大学院医学系研究科修士課程臨床心理学専攻の開設を是非とも実現され、当会との一層の連携促進が図れますよう要望させていただきます。また、カリキュラム編成におかれましては、教育学部で培われてこられました臨床心理学の伝統が反映されますことをお願い申し上げます。

今後とも、ご指導ご支援をいただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

謹白

# 資料5

## 臨床心理実習学外実習先一覧

区分	施設名	所在地	受入 科目名	受入 人数	距離	交通 手段
病院 臨床	① 香川大学医学部附属病院	〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1	心理実践実習C 心理実践実習D	10 10	0	徒歩
	② 医療法人社団 以和貴会 いわき病院	〒761-1402 香川県高松市香南町由佐113-1	心理実践実習A 心理実践実習C	3 2	15.6	車 30分
	③ 松浦こどもメンタルクリニック	〒769-0206 香川県綾歌郡宇多津町浜六番丁78-12	心理実践実習A	1	36.5	車 60分
	④ 竜雲メンタルクリニック	〒761-8075 香川県高松市多肥下町466	心理実践実習A	3	7.5	車 15分
	⑤ 独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター	〒765-8507 香川県善通寺市仙遊町2丁目1-1	心理実践実習A	3	40.9	車 60分
	⑥ さぬき市民病院	〒769-2393 さぬき市寒川町石田東甲387-1	心理実践実習A 心理実践実習C	3 2	10.3	車 15分
	⑦ 医療法人社団光風会 三光病院	〒761-0123 高松市牟礼町原883-1	心理実践実習A 心理実践実習C	3 2	7.9	車 15分
	⑧ こころの医療センター 五色台	〒762-0023 坂出市加茂町963番地	心理実践実習A 心理実践実習C	3 2	21.4	車 25分
	⑨ 医療法人社団三愛会 三船病院	〒763-0073 丸亀市柞原町366	心理実践実習A 心理実践実習C	3 2	35.3	車 30分
	⑩ 香川県子ども女性相談センター	〒760-0004 香川県高松市西宝町2丁目6-32	心理実践実習B	4	12.8	車 30分
	⑪ 社会福祉法人 香川こだま学園	〒760-0080 香川県高松市木太町1997-3	心理実践実習B	3	7.1	車 15分
	⑫ 高松市総合教育センター 高松市適応指導教室	〒760-0060 高松市末広町5番地	心理実践実習B	10	9.9	車 20分
	⑬ 社会福祉法人 さぬき	〒760-0005 香川県高松市宮脇町2-37-21	心理実践実習B	4	12.4	車 25分
教育・福祉 臨床						

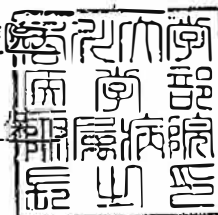
# 心理実践実習受入承諾書

平成31年3月15日

国立大学法人香川大学  
学長 笥 善行 殿

(機関名) 香川大学医学部附属病院

(職名・氏名) 病院長 横見瀬 裕



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 C  
心理実践実習 D

# 心理実践実習受入承諾書

平成27年8月27日



国立大学法人香川大学  
学長 笈 善行 殿

(機関名)

香川県高松市春町由佐113番地

医療法人社団 平和会

いわき病院

(職名・氏名)

理事長

渡辺 昭三



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 A

心理実践実習 C

# 心理実践実習受入承諾書

平成 31 年 3 月 7 日

国立大学法人香川大学  
学長 笈 善行 殿

(機関名) 松浦こどもメンタルクリニック

(職名・氏名) 院長・松浦秀雄



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 A

# 心理実践実習受入承諾書

平成 31 年 03 月 12 日

国立大学法人香川大学  
学長 寛 善行 殿

(機関名)

〒761-8675 香川県高松市多度下町字二反田465  
竜雲メンタルクリニック

(職名・氏名)

院長 伊庭 永二



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 A


# 心理実践実習受入承諾書

平成31年3月11日

国立大学法人香川大学  
学長 笈 善行 殿

(機関名) 独立行政法人国立病院機構 四国地区  
四国こどもとおとなの医療センター

(職名・氏名) 院長 中川 義信



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記


科目名：心理実践実習 A



# 心理実践実習受入承諾書

令和  
辛戌 元年 6月27日

国立大学法人香川大学  
学長 笈 善行 殿

(機関名) さぬき市民病院  
(職名・氏名) 院長・ 藤田 道  


香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 A  
心理実践実習 C

# 心理実践実習受入承諾書

令和元年 6 月 26 日

国立大学法人香川大学  
学長 箕 善行 殿

(機関名)

香川県高松市年礼町原883番地  
医療法人社団光風会三光病院  
院長 海野 順



(職名・氏名)

香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 A  
心理実践実習 C

# 心理実践実習受入承諾書

令和  
平城 元年 6 月 28 日

国立大学法人香川大学  
学長 笥 善行 殿

医療法人社団五色会  
(機関名) こころの医療センター  
(職名・氏名) 理事長 佐 藤



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

## 記

科目名：心理実践実習 A  
心理実践実習 C

# 心理実践実習受入承諾書

令和  
~~平成~~ 元年 6月28日

国立大学法人香川大学  
学長 寛 善行 殿

(機関名) 医療法人社団三愛会  
三 船 病 院

(職名・氏名) 病 院 長 和 史  
三 船 和 史



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 A  
心理実践実習 C

# 心理実践実習受入承諾書

平成31年3月7日

国立大学法人香川大学  
学長 笥 善行 殿

(機関名) 香川県子ども女性相談センター

(職名・氏名)

所長 合田 真知子



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 B

# 心理実践実習受入承諾書

平成 31 年 3 月 11 日

国立大学法人香川大学  
学長 寛 善行 殿

(機関名)

社会福祉法大

香川こだま学

(職名・氏名)

園長 大森千代美



香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 B

# 心理実践実習受入承諾書

平成31年3月7日

国立大学法人香川大学  
学長 笥 善行 殿

(機関名) 高松市総合教育センター

(職名・氏名) 所長 篠原隆則 (印)

香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 B

# 心理実践実習受入承諾書

平成 3 / 年 3 月 11 日

国立大学法人香川大学  
学長 笥 善行 殿

(機関名)

社会福祉法人 さぬき

(職名・氏名)

園長 富田

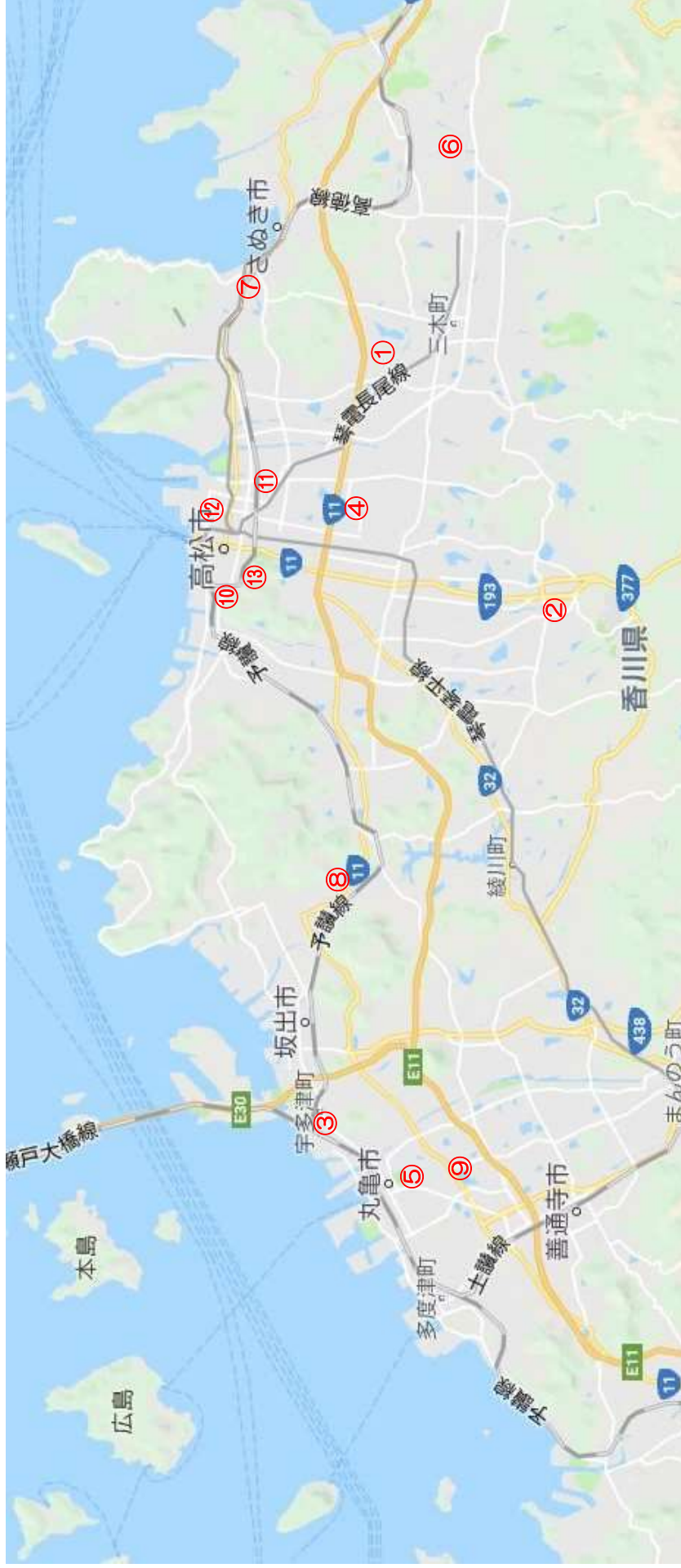
繁

香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻の下記実習科目について学生を受け入れることを承諾します。

記

科目名：心理実践実習 B





	① 香川大学医学部附属病院
	② 医療法人社団以和貴会 いわき病院
	③ 松浦こどもメンタルクリニック
	④ 竜雲メンタルクリニック
	⑤ 独立行政法人国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター
	⑥ さぬき市民病院
	⑦ 医療法人社団光風会 三光病院
	⑧ ころの医療センター 五色台
	⑨ 医療法人社団三愛会 三船病院
	⑩ 香川県子ども女性相談センター
	⑪ 社会福祉法人 香川こだま学園
	⑫ 高松市総合教育センター 高松市適応指導教室
	⑬ 社会福祉法人 さぬき
病院臨床	
教育・福祉臨床	

## 医療の素養と臨床心理面接の実践力をもった多職種協働促進型心理援助者養成モデル

科目区分	授業科目	履修年次	単位数	単位			授業形態			受験資格		備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	公認	臨床		
臨床心理学の理論と方法	臨床心理学特論Ⅰ ※1	1前	2		2		○				○		
	臨床心理学特論Ⅱ ※1	1後	2		2		○				○		
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践） ※1	1前	2	2			○			○	○		
	臨床心理面接特論Ⅱ ※1	1後	2		2		○				○		
臨床心理学研究法	臨床心理学研究法特論 ※A	1通	2	2				○			○		
	心理援助者のための職業倫理と生命・研究倫理	1通	1	1			○						
	課題研究（修士論文）	2通	4	4				○			○		
心理臨床の分野	心理援助職のための応用医学特論	1前	1	1			○						
	心理援助職のための多職種連携	1前	1	1			○						
	教育臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開） ※B	1後	2	2			○			○	○		
	精神医療における心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開） ※D	1前	2	2			○			○	○		
	心身医学と心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開） ※D	1後	2	2			○				○		
	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） ※C	2前	2	2			○			○	○		
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開） ※C	2休	2	2			○			○	○		
心理援助の展開	福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開） ※D	2休	2	2			○			○	○		
	家族・集団臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践） ※C	1後	2	2			○			○	○		
臨床心理面接の技能	心の健康教育に関する理論と実践	2後	2	2			○			○			
	臨床心理基礎実習 ※1	1通	2	2					○		○		
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践） ※1	1前	2	2				○		○	○		
	臨床心理査定演習Ⅱ ※1	1後	2		2			○			○		
心理臨床の現場での実習	面接技法演習 ※E	1後	2		2			○			○		
	心理臨床相談室	心理実践実習Ⅰ（ケースフォーミュレーション実習）	1・2通	1	1					○	○	1単位45時間	
		心理実践実習Ⅱ（心理臨床事例検討実習Ⅰ）	1通	1	1					○	○	1単位45時間	
		臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅲ（心理臨床事例検討実習Ⅱ）） ※1	2通	1	1					○	○	○	1単位45時間
		臨床心理実習Ⅱ ※1	2通	1		1				○		○	
	臨床等の現場	心理実践実習A（地域医療実習）	1後	2	2					○	○	1単位45時間	
		心理実践実習B（福祉・教育実習）	1後	2	2					○	○	1単位45時間	
		心理実践実習C（精神・神経領域病院実習）	2通	2	2					○	○	1単位45時間	
心理実践実習D（身体領域病院実習）		2通	1	1					○	○	1単位45時間		
小計				41	11	修了要件 基礎科目、研究科目及び専門科目の必修科目39単位以上を修得し、学位論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すること							
合計				52									

## 臨床心理学専攻の3つのポリシーの策定過程について

香川大学大学院では、全研究科（専攻）共通の「大学院課程の3つポリシー」を下記のとおり定めている。

## 大学院課程における教育理念

香川大学は、世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献することを理念とします。大学院課程では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指します。

## ディプロマ・ポリシー（修了の認定に関する方針）

香川大学大学院では、本学の教育理念に基づき、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成します。そのため、本学の大学院課程における修了の認定に関する方針は、①専門知識・理解、②研究能力・応用力、③倫理観・社会的責任、④グローバルマインド、をその構成要素としています。これらの構成要素に基づき、各研究科の学生として求められる専門的な能力・態度を身につけた者に、学位を授与します。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

修了の認定に関する方針に挙げた4つの構成要素に基づき、各研究科の学生として求められる専門的な能力・態度を身につけた人材を育成するために、教育課程を編成・実施します。修了要件単位数は研究科ごとに定められています。

学修成果の評価については、シラバスに多角的な成績評価基準を明示した上で厳格な成績評価を行っています。特に学位論文の評価（審査）については、(1) テーマ設定（当該分野の発展への貢献、オリジナリティ）、(2) 研究内容とその記述（目的の明示、研究方法の妥当性、研究倫理、記述法・ルール、結果の考察とまとめ）、(3) 成果（成果の水準）といった基準に基づき行っています。

## アドミッション・ポリシー（入学者の受入れに関する方針）

香川大学大学院では、本学の教育理念に基づき、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた研究能力・応用力を備え、国際的な視野で地域社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成します。そのため、以下のような学力・能力・資質等を備えた向学心旺盛な学生の入学を期待し、多様な入学者選抜を実施します。

入学者に求める学力・能力・資質等

- ①世界水準の専門性の高い学問を学ぶための基礎的知識・技能・理解力
- ②創造的で人間性豊かに課題を探究し、論理的にまとめる思考力・判断力・表現力
- ③世界水準の専門的研究を実践するための基礎的研究能力・応用力

- ④専門分野に対する高い志を持ち、切磋琢磨する探求心・意欲・態度
- ⑤複雑で多様な国際社会や地域社会への貢献において、自己が果たすべき役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力
- ⑥国際感覚を有し、専門分野において社会をリードできる基礎的グローバルマインド

本学は、全研究科（専攻）に共通した4つの能力（①専門知識・理解、②研究能力・応用力、③倫理観・社会的責任、④グローバルマインド）を設定し、これをもとに、各研究科（専攻）において達成目標、学修内容、学生過程等を定めている。

医学系研究科臨床心理学専攻の3つのポリシーの策定にあたっては、「大学院課程の3つのポリシー」に基づき策定した。策定にあたっては下記の事項を条件とした。

#### ①策定単位

- ・（3つのポリシーの）策定単位は、臨床心理学専攻とする。

#### ②臨床心理学専攻のポリシー間の整合性（一貫性）の確保

- ・臨床心理学専攻の3つのポリシーの相互関係（整合性）に留意する

#### ③大学院課程の3つのポリシーと臨床心理学専攻3つのポリシーとの整合性の確保

- ・すでに設定されている全研究科（専攻）共通のポリシーと臨床心理学専攻のポリシーに整合性を持たせる。

整合性を持たせるために、全研究科（専攻）共通の4つの能力に基づき、各ポリシーの構成事項（到達基準、学修内容、方法、科目配置等）の検討を行う。

②～③の条件を満たすため、ワークシートを2種類作成した。ワークシート1では、臨床心理学専攻の3つのポリシーの整合性を点検した。ワークシート2では、大学院課程の3つのポリシーと臨床心理学専攻の3つのポリシーの整合性を検討するため、大学院課程のディプロマ・ポリシーにおける4つの能力に対応した、能力・態度(学修成果)の到達基準 (DP の構成事項)、目標及び基準到達のための学修内容・方法、学修過程、成果の評価 (CP の構成事項)、入学者に求める資質・能力 (養成する人材像・AP の構成事項) の詳細を検討・整理した。検討の過程で、②研究能力・応用力は、臨床心理学専攻では、「応用力」を削除し、「研究能力」と表記することとした。

ワークシート1, 2を往還した検討、学生の理解のしやすさ等への配慮を踏まえ、臨床心理学専攻のディプロマ・ポリシーを策定した。

## ワークシート 1 (臨床心理学専攻の 3 つのポリシーの整合性の検討)

	ディプロマ・ポリシー (到達目標)	カリキュラム・ポリシー (科目の編成・実施)	アドミッション・ポリシー (求める人材像等)
	<p><b>【修士認定・学位授与方針 (DP)】</b> 臨床心理学専攻の大学院生が修了時に修得しているべき能力を、修了の認定に関する方針 (ディプロマポリシー, DP) として以下に示す。 香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻 (修士課程) では、その教育理念に基づき、以下の能力を身につけ、多様な心理臨床の現場で活躍できる高度専門職業人を育成する。</p> <p>① 臨床心理学に関する高度な専門的知識と心理援助者として必要な医学的素養、精神医学及び心身医学の知識を修得し、それらをもってクライアントや患者を理解することができる能力</p> <p>② 臨床心理学の分野において、自らの論理的思考に基づき研究を計画及び遂行・議論できる能力</p> <p>③ 高い倫理観・社会的責任感を持ち、自律的かつ省察的態度をもって、多様な現場で多職種と連携・協働することができる能力</p> <p>④ 国際的な臨床心理学研究と実践の視野をもち、多文化理解や多文化共生のための諸課題についても、心理的理解・援助を行える能力、心理的理解・援助をおこなうことができる。</p>	<p><b>【教育課程と実施の方針 (CP)】</b> 香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻 (修士課程) は、修了の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) に示した人材を育成するために、以下の方針によりカリキュラムを編成する。</p> <p>① 臨床心理学の高度な専門知識を修得させるための、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各領域の科目及び心理援助者として必要な医学的素養を修得するための科目を実施する。</p> <p>② 論理的思考に基づき研究を計画・遂行・論議する能力を修得させるために、臨床心理学の研究に関する科目を実施する。</p> <p>③ 高い倫理観・社会的責任感を身に付けさせるために、心理援助者としての職業倫理・研究倫理・生命倫理に関する科目及び多職種連携の概念や心理援助者の専門性を活かした連携・協働のあり方を身に付けさせるために、心理援助者としての多職種連携の科目を実施する。</p> <p>④ 諸外国の臨床心理学や心理援助に関する研究動向、多文化理解や多文化共生の諸課題に対して有効な能力を修得させるために、臨床心理学の基礎理論に関する科目、臨床心理査定に関する科目を実施する。</p>	<p><b>【入学者受入方針 (AP)】</b> 大学院入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている大学院生を求めており、以下のとおり入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー) を定める。</p> <p><b>【求める人材像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 此の所の専門家として、公認心理師や臨床心理士等の資格取得を目指すにあたり、心理臨床・カウンセリングに関する幅広い分野やこころと身体とのつながりに関心を持つ人</li> <li>・ 他の職種の専門家との協力のもと、個人に対する援助とともに、地域社会への貢献を視野に臨床心理学を学ぼうとする人</li> <li>・ 高度な専門職業人として、臨床心理学に関する研究と実践を通して、社会の発展および個人の健康増進に寄与したいと願っている人</li> </ul> <p>① <b>知識・技能・理解力</b> 心理学・臨床心理学に関する大学卒業程度の基礎的知識・技能・理解力</p> <p>② <b>思考力・判断力・表現力</b> 自らの論理的思考・判断に基づき、心の健康・成長や心理援助に関する諸課題を説明できる表現力</p> <p>③ <b>研究能力</b> 心の問題を考える上での実証的研究法についての基礎的な知識・理解力</p> <p>④ <b>探求心・意欲・態度</b> 心理的援助について学び、実践し、研究することに対する高い志・意欲・態度と創造的な探求心</p> <p>⑤ <b>倫理観・社会的責任</b> 心理援助者を目指す者として、人間尊重の態度と共感的コミュニケーション力、他の職種との協力を志向する姿勢及び倫理的態度</p> <p>⑥ <b>グローバルマインド</b></p>

## 資料 7

			臨床心理学に関連する国内外の情報を理解する基本的言語能力と、国際的な視野・多文化理解の視点から、地域社会における臨床心理学の諸課題を考えることができる発想力
--	--	--	--

## ワークシート 2 (4つの能力に対応した各事項の検討)

	身につけるべき能力・態度の到達基準	学修方法・学修過程、学修成果の評価	求める資質・能力及び試験方法
専門知識・理解	DP①臨床心理学に関する高度な専門的知識と心理援助者として必要な医学的素養、精神医学及び心身医学の知識を修得し、それらをもってクライアントや患者を理解することができる能力	CP①臨床心理学の高度な専門知識を修得させるための、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各領域の科目及び心理援助者として必要な医学的素養を修得するための科目を実施する。	AP①「知識・技能・理解力」の「心理学・臨床心理学に関する大学卒業程度の基礎的知識・技能・理解力」と、AP②「思考力・判断力・表現力」の「自らの論理的思考・判断に基づき、心の健康・成長や心理援助に関する諸課題を説明できる表現力」を評価するために「専門科目：臨床心理学」を課す。
	<p>1) 臨床心理学に関する高度で実践的な専門知識と理論を理解・修得しているとともに、高度専門職業人として幅広い知識と自らの専門性に立脚した見識を備えている。</p> <p>2) 医学的視点を持ち、精神医学及び心身医学の知識を修得し理解するとともに、心理援助者にとって重要な疾患・障害についての医療の現状を理解している。</p> <p>3) 臨床心理学的知識と医学的素養に基づき、適切な来談者と患者の理解をおこなえる実践的援助力を有している。</p>	<p>1) 1年次では「臨床心理学特論Ⅰ、Ⅱ」で臨床心理学の基礎理論を学び、それらと並行して専門科目である「臨床心理面接特論Ⅰ、Ⅱ」で面接法について学び、「心理学研究法特論」にて心理学研究法を学ぶ。領域別の心理学として、「教育臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」、「発達臨床心理学特論」、「家族・集団臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」、「力動的心理療法特論」にて幅広い臨床心理学的知識を修得する。</p> <p>2年次ではさらに「産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」、「犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）」、「福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」、「心の健康教育に関する理論と実践」を受講し、より広範な心理学的領域についての知識を修得する。</p> <p>2) 1年次で、「心理援助職のための応用医学特論」により心理援助に特に関係が深い領域の医学的知識を習得し、「精神医療における心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」、「心身医学と心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」により、それぞれ精神医学および心身医学と心理援助との関係を理解する。</p> <p>3) 1年次では、「臨床心理基礎実習」で心理学の基本となる理論を実習の形で修得し、心理的アセスメントを「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）」、「臨床心理査定演習Ⅱ」で実践的に理解し技法を修得する。面接法については、「面接技法演習」で試行的なカウンセリングの実践とスーパーヴィジョンを通して修得する。事例理解については、「心理実践実習Ⅰ（ケースフ</p>	

		<p>オーミュレーション実習)、心理実践実習Ⅱ(心理臨床事例検討実習Ⅰ)」で実際の事例に則して理解を図る。</p> <p>2年次では、「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習Ⅲ(心理臨床事例検討実習Ⅱ))」、「臨床心理実習Ⅱ」において事例を担当し、スーパーヴィジョンを受けることでより精密な検討力を修得する。さらに医療機関での実習「心理実践実習C(精神・神経領域病院実習)」、「心理実践実習D(身体領域病院実習)」において、医療の現場における心理援助の方法について医療関係者の指導も受けながら理解を深め心理実践能力を修得する。</p>	
研究能力	DP② 臨床心理学の分野において、自らの論理的思考に基づき研究を計画及び遂行・議論できる能力	CP② 論理的思考に基づき研究を計画・遂行・論議する能力を修得させるために、臨床心理学の研究に関する科目を実施する	AP③「研究能力」の「心の問題を考える上での実証的研究法についての基礎的な知識・理解力」、とAP④「探求心・意欲・態度」の「心理的援助について学び、実践し、研究することに対する高い志・意欲・態度と創造的な探求心」を評価するために、「面接」と出願時の書類として「修士論文研究計画書」「卒業論文の概要」を課す。
	臨床心理学の分野において、自らの論理的思考に基づき研究を計画及び遂行する能力とともに、その成果を発表し議論できる能力を備えている。	<p>1年次における「心理学研究法特論」にて心理学の研究法を学び、「臨床心理学研究法特論」で研究課題の設定の仕方や研究方法、および研究倫理について、講義およびゼミナール形式での討論や発表を通じて、修士論文の作成に繋がる基礎的知識と能力を修得する。</p> <p>1～2年次を通して行われる修士論文の指導「課題研究(修士論文)」により、自らの論理的思考に基づき研究を計画・遂行し、得られた量的・質的なデータや根拠に基づいて修士論文としてまとめて、研究能力、研究倫理、言語運用能力、さらには発表能力を培う。心理臨床の分野において、自らの論理的思考に基づき研究を計画及び遂行する能力とともに、その成果を発表し議論できる能力を修得する。</p>	
倫理観・社会的責任	DP③ 高い倫理観・社会的責任感を持ち、自律的かつ省察的態度をもって、多様な現場で多職種と連携・協働することができる能力	CP③ 高い倫理観・社会的責任感を身に付けさせるために、心理援助者としての職業倫理・研究倫理・生命倫理に関する科目及び多職種連携の概念や心理援助者の専門性を活かした連携・協働のあり方を身に付けさせるために、心理援助者としての多職種連携の科目を実施する。	AP⑤「倫理観・社会的責任」の「心理援助者を目指す者として、人間尊重の態度と共感的コミュニケーション力、他の職種との協力を志向する姿勢及び倫理的態度」を評価するために、「面接」と出願時の書類として「志望動機」を課す。
	1) 心理援助者としての豊かな人間性と高い倫理観・責任感を持ち、自律的かつ省察的態度をもつ	1) 心理援助者の職責に対する社会的責任と倫理性は、修士課程におけるすべての科目において培われる。	



<p>て行動することができる。</p> <p>2) 人々の心の健康と成長を実現する社会的責任を自覚し、生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持ち、高度専門職業人として活躍することができる。</p> <p>3) 人々の心の健康と成長を援助するため、保健医療や福祉等の現場で多職種と連携・協働しながら、専門的知見と高度な実践的援助力を生かし</p>	<p>1 年次の「研究・生命倫理」では生命科学や研究における倫理観と共に心理援助者としての職業倫理観を身につける。また、「臨床心理基礎実習」「面接技法演習」「臨床心理実習」等の心理面接やプレイセラピーの技能を養成する科目では、カウンセリングの演習や実際のケース担当とその指導を通して、心理援助者としての姿勢・態度、守秘義務、説明と同意の重要性とその実際など、心理援助者としての豊かな人間性と高い倫理観・責任感、自律的かつ省察的態度を身につける。さらに、医療・福祉・教育の各現場の「心理実践実習」の実習科目において、各現場で実習経験をグループで振り返ること、実習指導者や実習担当教員、専攻教員からの指導を受けることなどを通して、そこで得た個人情報や心理的課題について多職種が共有する上での守秘義務のあり方、説明と同意の重要性とその実際など、心理援助者としての豊かな人間性と高い倫理観・責任感、自律的かつ省察的態度を身につける。</p> <p>2) 1 年次の「教育臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」、「精神医療における心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」、「心身医学と心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」、2 年次の「福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」、「産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」、「犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）」では、心理援助者としての社会的責任に関係の深い分野に求められる心理支援についての講義や討議を通して、人々の心の健康と成長を実現する社会的責任を自覚する。</p> <p>また、「臨床心理学研究法特論」や修士論文作成を通じて、生涯にわたり研鑽に努める姿勢、高度専門職業人として活躍するための姿勢を修得する。</p> <p>3) 基本的知識として、1 年次の「心理援助職のための応用医学特論」にて、心理援助者における多職種連携についての基礎知識を講義やロールプレイ</p>	
--	---	--

	て、心理臨床の充実・発展に取り組むことができる。	において学び、「精神医療における心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」、「心身医学と心理支援（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」にて医療分野との連携を理解し、2年次の「福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」にて福祉分野との連携を理解する。それらと平行して、心理実践実習A～Dにおいて、地域医療・福祉、また中核医療機関での医療における心理援助職のチームにおける役割を実践的に体験・修得する。	
グローバルマインド	<p>DP④ 国際的な臨床心理学研究と実践の視野をもち、多文化理解や多文化共生のための諸課題についても、心理的理解・援助を行える能力、心理的理解・援助をおこなうことができる。</p> <p>1) アメリカ心理学会（APA）をはじめ、諸外国の臨床心理学や心理的援助の実践に関する研究動向を理解して参照することができる。心理援助者養成に関する諸外国の歴史や現状を理解することができる。</p> <p>2) グローバル化の進んだ現代社会を理解し、多文化理解や多文化共生のための諸課題に対して、心理的理解や援助を行える能力を備えている。国内外の臨床心理学研究と実践の視野をもち、多文化理解や多文化共生のための諸課題についても、心理的理解・援助をおこなうことができる。</p>	<p>CP④ 諸外国の臨床心理学や心理援助に関する研究動向、多文化理解や多文化共生の諸課題に対して有効な能力を修得させるために、臨床心理学の基礎理論に関する科目、臨床心理査定に関する科目を実施する。</p> <p>1) 1年次の「臨床心理学特論Ⅰ」、「臨床心理学特論Ⅱ」、「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）」、「臨床心理査定演習Ⅱ」「臨床心理学研究法特論」、「課題研究（修士論文）」などでは、諸外国の臨床心理学や心理的援助の実践に関する研究動向について理解する。また、心理援助者養成に関する諸外国の歴史や現状を理解する。そして、国内の臨床心理学に関する研究動向と共に、諸外国の臨床心理学の先端の研究動向を参照して、国際的な研究にも目を向けて、研究を計画及び遂行・議論できる国際的な視野を修得する。</p> <p>2) 1年次の「家族・集団臨床心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」、「教育臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」、2年次の「産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」、「福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」などでは、グローバルの観点から、滞日外国人家族や外国人労働者といった新たな地域の課題について、各講義科目で取り扱う。そして、各授業科目の分野からみた課題、専門的機関・施設、具体的アプローチについて学ぶ。多文化理解や多文化共生などのグローバルな視点から地域</p>	<p>AP⑥「グローバルマインド」では「臨床心理学に関連する国内外の情報を理解する基本的言語能力と、国際的な視野・多文化理解の視点から、地域社会における臨床心理学の諸課題を考えることができる発想力」を評価するために「外国語：英語」を課す。</p>

		社会とそこに住む人々の理解と各分野からの支援、そして、グローバル化の進んだ現代社会を理解し、多文化理解や多文化共生のための諸課題に対して、多分野からの包括的な知識を身に付ける。	
--	--	--	--

## 臨床心理学専攻の3つのポリシー

	ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
	<p><b>【修了認定・学位授与方針 (DP)】</b> 臨床心理学専攻の大学院生が修了時に修得しているべき能力を、修了の認定に関する方針（ディプロマポリシー、DP）として以下に示す。 香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻（修士課程）では、その教育理念に基づき、以下の能力を身につけ、多様な心理臨床の現場で活躍できる高度専門職業人を育成する。</p> <p>① 臨床心理学に関する高度な専門的知識と心理援助者として必要な医学的素養、精神医学及び心身医学の知識を修得し、それらをもってクライアントや患者を理解することができる能力</p> <p>② 臨床心理学の分野において、自らの論理的思考に基づき研究を計画及び遂行・議論できる能力</p> <p>③ 高い倫理観・社会的責任感を持ち、自律的かつ省察的態度をもって、多様な現場で多職種と連携・協働することができる能力</p> <p>④ 国際的な臨床心理学研究と実践の視野をもち、多文化理解や多文化共生のための諸課題についても、心理的理解・援助を行える能力、心理的理解・援助をおこなうことができる。</p> <p>本研究科を修了し、本学が送り出す修士（臨床心理学）の身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりである。</p> <p>① 専門知識と理解 1) 臨床心理学に関する高度で実践的な専門知識と理論を理解・修得しているとともに、高度専門職業人として幅広い知識と自らの専門性に立脚した見識を備えている。</p>	<p><b>【教育課程と実施の方針 (CP)】</b> 香川大学大学院医学系研究科臨床心理学専攻（修士課程）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、以下の方針によりカリキュラムを編成する。</p> <p>① 臨床心理学の高度な専門知識を修得させるための、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の各領域の科目及び心理援助者として必要な医学的素養を修得するための科目を実施する。</p> <p>② 論理的思考に基づき研究を計画・遂行・論議する能力を修得させるために、臨床心理学の研究に関する科目を実施する。</p> <p>③ 高い倫理観・社会的責任感を身に付けさせるために、心理援助者としての職業倫理・研究倫理・生命倫理に関する科目及び多職種連携の概念や心理援助者の専門性を活かした連携・協働のあり方を身に付けさせるために、心理援助者としての多職種連携の科目を実施する。</p> <p>④ 諸外国の臨床心理学や心理援助に関する研究動向、多文化理解や多文化共生の諸課題に対して有効な能力を修得させるために、臨床心理学の基礎理論に関する科目、臨床心理査定に関する科目を実施する。</p>	<p><b>【入学者受入方針 (AP)】</b> 大学院入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている大学院生を求めており、以下のとおり入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定める。</p> <p><b>【求める人材像】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 此の所の専門家として、公認心理師や臨床心理士等の資格取得を目指すにあたり、心理臨床・カウンセリングに関する幅広い分野やこころと身体のつながりに関心を持つ人</li> <li>・ 他の職種の専門家との協力のもと、個人に対する援助とともに、地域社会への貢献を視野に臨床心理学を学ぼうとする人</li> <li>・ 高度な専門職業人として、臨床心理学に関する研究と実践を通して、社会の発展および個人の健康増進に寄与したいと願っている人</li> </ul> <p>① <b>知識・技能・理解力</b> 心理学・臨床心理学に関する大学卒業程度の基礎的知識・技能・理解力</p> <p>② <b>思考力・判断力・表現力</b> 自らの論理的思考・判断に基づき、心の健康・成長や心理援助に関する諸課題を説明できる表現力</p> <p>③ <b>研究能力</b> 心の問題を考える上での実証的研究法についての基礎的な知識・理解力</p> <p>④ <b>探求心・意欲・態度</b> 心理的援助について学び、実践し、研究することに対する高い志・意欲・態度と創造的な探求心</p> <p>⑤ <b>倫理観・社会的責任</b> 心理援助者を目指す者として、人間尊重の態度と共感的コミュニケーション力、他の職種との協力を志向する姿勢及び倫理的態度</p>

<p>2) <u>医学的視点</u>をもち、精神医学及び心身医学の知識を修得し理解するとともに、心理援助者にとって重要な疾患・障害についての医療の現状を理解している。</p> <p>3) <u>臨床心理学的知識と医学的素養に基づき、適切な来談者と患者の理解をおこなえる実践的援助力を有している。</u></p> <p>② 研究能力 臨床心理学の分野において、自らの論理的思考に基づき研究を計画及び遂行する能力とともに、その成果を発表し議論できる能力を備えている。</p> <p>③ 倫理観・社会的責任</p> <p>1) <u>心理援助者としての豊かな人間性と高い倫理観・責任感を持ち、自律的かつ省察的態度をもって行動することができる。</u></p> <p>2) <u>人々の心の健康と成長を実現する社会的責任を自覚し、生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持ち、高度専門職業人として活躍することができる。</u></p> <p>3) <u>人々の心の健康と成長を援助するため、保健医療や福祉等の現場で多職種と連携・協働しながら、専門的知見と高度な実践的援助力を生かして、心理臨床の充実・発展に取り組むことができる。</u></p> <p>④ グローバルマインド</p> <p>1) <u>諸外国の臨床心理学や心理的援助の実践に関する研究動向を理解して参照することができる。心理援助者養成に関する諸外国の歴史や現状を理解することができる。</u></p> <p>2) <u>グローバル化の進んだ現代社会を理解し、多文化理解や多文化共生のための諸課題に対して、心理的理解や援助を行える能力を備えている。国内外の臨床心理学研究と実践の視野をもち、多文化理解や多文化共生のための諸課題についても、心理的理解・援助をおこなうことができる。</u></p>		<p>⑥ <u>グローバルマインド</u> 臨床心理学に関連する国内外の情報を理解する基本的言語能力と、国際的な視野・多文化理解の視点から、地域社会における臨床心理学の諸課題を考えることができる発想力</p>
--	--	--